

# 追悼の詞

安達漢城

人生は夢の如く亦烟の如し

君逝いて茫茫転暗然

長方長弟 温容呼ぶども 答えず

大空漠漠恨綿綿

【作者】安達漢城（一八六四～一九四八年）名は謙蔵（けんぞう）、漢城と号す、熊本の人。政治家にして選挙の神様といわれる。通相（ていそう）、内相を歴任、若くして吟詩を好み、横浜に八聖殿を、熊本に三賢堂を建て国民精神涵養に意をつくした。なお本会顧問としてしばしば大会に出席された。昭和二十三年八月没す。年八十五歳没。

【語釈】\*暗然…心が暗くしずんでいるさま。 \*漠漠…ひろびろとして、はてしのないさま。  
\*綿綿…長くつづいてたえぬさま。

【通釈】人の命は、夢や煙のようにはかなく、定めのないものと分かつてはいるが、君の死にあつてみると、唯ほんやりと、心も暗く打ち沈んでしまう。在りし日の君の姿をしのんで、名前を呼んでも答えてくれず、恨みだけが永く続いてつきまじることはない。